

2019年3月期 第3四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）
2. 業績のポイント
3. 業績予想の修正
4. 主要製品の状況
5. 開発品一覧
6. セグメント情報
7. 業績と修正予想（連結）

2019年2月5日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2019年3月期 第3四半期 決算概観（連結）

（単位：百万円）

	16年3月期 第3四半期	17年3月期 第3四半期	18年3月期 第3四半期	19年3月期 第3四半期	増減率 (%)	19年3月期 (修正予想)	増減率 (%)	19年3月期 (当初予想)
売上高	89,469	86,836	82,923	82,017	-1.1	110,600	-0.0	114,400
営業利益	14,666	7,313	7,805	6,794	-13.0	8,200	-7.1	8,600
経常利益	14,946	7,716	8,246	7,124	-13.6	8,600	-8.0	9,200
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	10,831	4,723	6,119	5,112	-16.5	6,100	-7.2	6,600

19年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

【売上高】 新医薬品（国内）は主力製品「フルティフォーム」が順調に伸長するとともに、新製品 過活動膀胱治療剤「ベオーバ」の売り上げも実績拡大に寄与したため、前年を上回る実績で推移し、後発医薬品の売り上げも増加しました。他方、新医薬品（海外）は前年度計上した導出品の開発進展に伴う一時金収入の反動減等により売り上げが減少し、全体の売上高は前年同期比9億6百万円減（前年同期比1.1%減）の820億17百万円となりました。

【利益】 薬価改定による売上原価率の上昇、及び前年度計上の導出品の一時金収入減少等により売上総利益が前年同期に対して36億48百万円減少しました。他方、販売費及び一般管理費は、費用の削減に取り組み、前年同期に対して26億37百万円減少（内、研究開発費23億16百万円減）し、営業利益は67億94百万円と前年同期比10億11百万円の減益（前年同期比13.0%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、51億12百万円（前年同期比16.5%減）となりました。

19年3月期 連結業績（予想）

2018年5月10日に公表しました（通期）連結業績予想を変更しました。

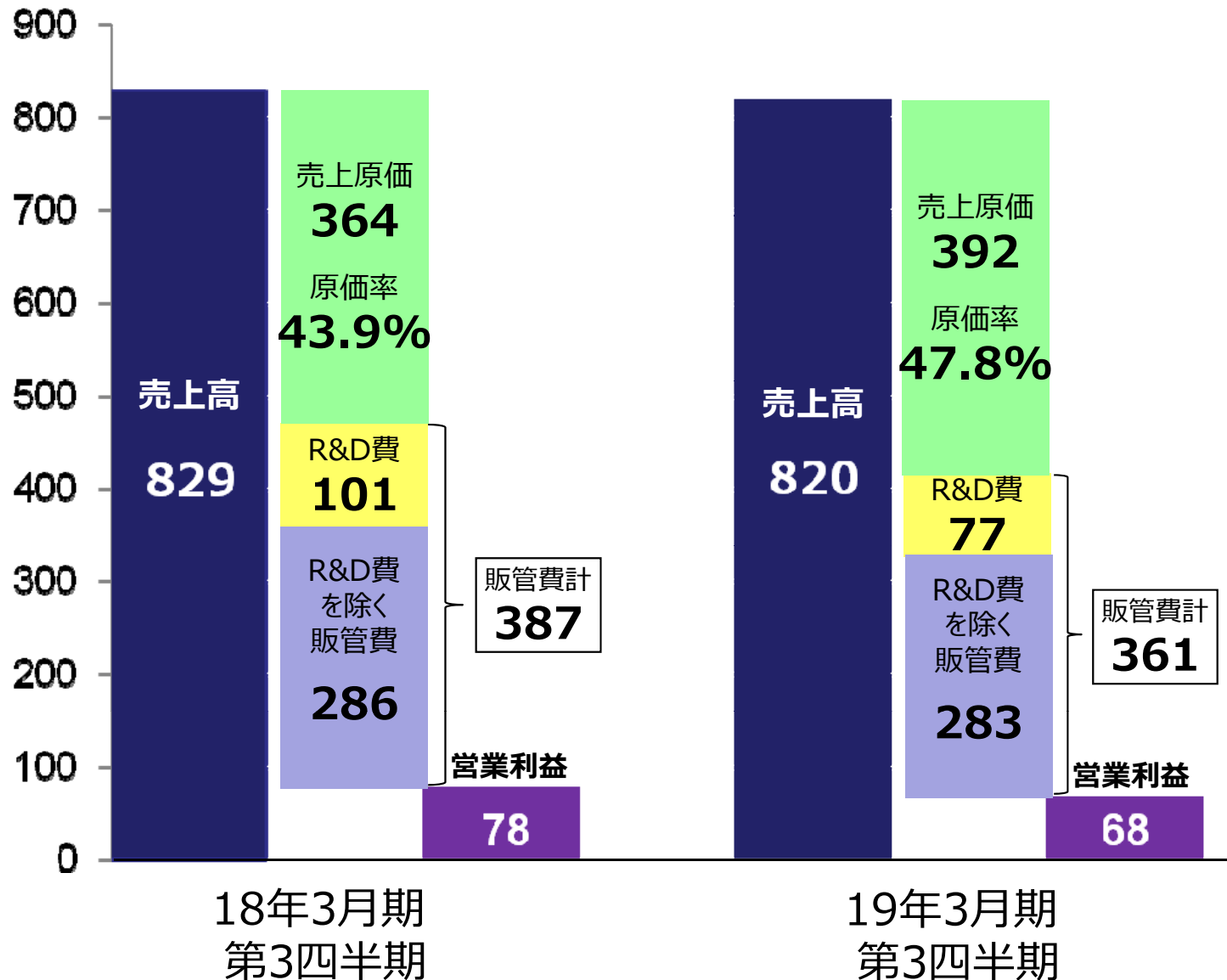
【売上高】 当第3四半期連結累計期間の業績推移、及び「デザレックス」の自主回収を勘案し、業績予想を修正いたしました。

【利益】 売上の下方修正により売上総利益が減少する一方、今年度の期初より推進している費用削減に取り組んだ結果、販売費及び一般管理費は当初予想から減少する見通しとなり、上表に示す数値に修正いたしました。

【配当】 2018年7月31日に公表した配当予想（第2四半期末30円/株、年間75円/株）の変更はございません。

2019年3月期 第3四半期 業績のポイント

(単位：億円)



【ポイント】

- 売上高は前年同期比9億円減少
- 売上原価率は3.9%上昇
 - ・薬価改定の影響
 - ・導出品の開発進展に伴う一時金収入の減少

■ 売上総利益は前年同期比36億円減少

- 販管費は前年同期比26億円減少
 - ・費用の削減の取り組み
 - ・R&D費は24億円減
 - ・販管費(R&D費を除く)は3億円減

■ 営業利益は前年同期比10億円減少

2019年3月期 第3四半期 業績の状況

(単位：億円)

(対前年)

	18年3月期 第3四半期	19年3月期 第3四半期	前年差額
売上高	829	820	-9
医療用医薬品事業	785	776	-9
◆新医薬品	579	562	-17
○国内	548	555	+7
○海外	31	6	-25
◆後発医薬品	206	214	+8
ヘルスケア事業	44	44	0

営業利益	78	68	-10
経常利益	82	71	-11
親会社株主に帰属する 四半期純利益	61	51	-10

■売上高	820億円	(-9)
◆医療用医薬品事業	776億円	(-9)
●国内新医薬品	555億円	(+7)
18.3 (3Q)	19.3 (3Q)	
・フルティフォーム	89	⇒ 98 (+9)
・ウリトス	56	⇒ 51 (-5)
・デザレックス	21	⇒ 48 (+27)
・キプレス	142	⇒ 100 (-42)
・ペンタサ	122	⇒ 105 (-17)
・ムコダイン	66	⇒ 51 (-15)
・ナゾネックス	-	⇒ 41 (+41)
・ベオーバ(18年11月新発売)	-	⇒ 7 (+7)
●海外新医薬品	6億円	(-25)
導出品の開発進展に伴う一時金収入の減少		
●後発医薬品	214億円	(+8)
今年度発売の追補収載品等の売上寄与		
◆ヘルスケア事業	44億円	(0)
■営業利益	68億円	(-10)
◆営業利益率は8.3%と前年同期比1.1ポイント低下		
●原価率：前年同期比3.9ポイント上昇 (43.9%⇒47.8%)		
・薬価改定等による影響、導出品の一時金収入の減少		
・棚卸資産の除却損を削減		
●研究開発費率：前年同期比2.7ポイント低下 (12.1%⇒9.4%)		
* 24億円減少 (101億円⇒77億円) 開発プロジェクトの進展 (前年)		
●販管費率 (R&D費を除く)：前年同期比率は横ばい (34.5%⇒34.5%)		
* 3億円減少 (286億円⇒283億円) 主に人件費、販売費の減少		
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	51億円	(-10)

2019年3月期 業績予想の修正について

(単位：億円)

	18年3月期	19年3月期 (当初予想)	19年3月期 (修正予想)	対当初予想 差額
売上高	1,106	1,144	1,106	-38
医療用医薬品事業	1,047	1,084	1,046	-38
◆新医薬品	770	809	771	-38
○国内	737	799	761	-38
○海外	33	10	10	0
◆後発医薬品	277	274	274	0
ヘルスケア事業	59	60	60	0
営業利益	88	86	82	-4
経常利益	93	92	86	-6
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	66	66	61	-5

【予想修正のポイント】

■当第3四半期連結累計期間の業績推移、及びアレルギー性疾患治療剤「デザレックス錠5mg」の自主回収（詳細は、2019年1月7日公表のプレスリリースをご覧ください）を勘案し、業績予想を修正いたしました。

[売上高]

上記理由により、医療用医薬品事業におきまして、主力製品である「ペンタサ」「デザレックス」等の売り上げが当初予想を下回る見通しとなりました。

[利益]

売上の下方修正により売上総利益が減少する一方、今年度の期初より費用削減に取り組んだ結果、販売費及び一般管理費は当初予想から減少する見通しとなり、表に示す数値に修正いたしました。

尚、「デザレックス」の自主回収・販売中断の対応につきましては、製造販売元であるMSD(株)と協議中であり、今後、新たに開示すべき事項が発生しました際は、速やかに情報開示いたします。

2019年3月期 第3四半期 主要製品の状況

(単位：億円)

		18年3月期 第2四半期	19年3月期 第2四半期	18年3月期 第3四半期	19年3月期 第3四半期	前年 差額	増減率 (%)	18年3月期 (実績)	19年3月期 (修正予想)	19年3月期 (当初予想)
国内 新医薬品	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	54	61	89	98	+9	+9.8	119	123	123
	ウリトス (自社販売) (過活動膀胱治療剤)	36	35	56	51	-5	-8.7	72	68	68
	デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	9	28	21	48	+27	+231.5	49	48	81
	キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	39	29	61	44	-17	-27.0	83	60	60
	キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	51	33	81	55	-26	-31.4	105	72	72
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	80	71	122	105	-17	-13.9	153	137	145
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	39	31	66	51	-15	-22.0	87	72	72
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	—	13	—	41	+41	—	—	101	101
	ベオーバ※ (選択的β3アドレナリン受容体作動性 過活動膀胱治療剤)	—	—	—	7	+7	—	—	8	8
※2018年11月発売										
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	50	53	82	83	+1	+1.3	117	98	98
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	11	11	17	17	0	+0.7	22	23	23

開発品一覧①（2019年2月5日現在）

PhⅢ ～ 承認

※前回（2019年3月期 第2四半期 11月5日発表）からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬 効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
申請 (17年4月)		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認（市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症） ・呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す ・血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性 高い安全性が期待される ・同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い	KRP-AM1977Xについては、追加の非臨床試験を実施中
申請準備中		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		
PhⅢ (17年3月)		KRP-116D	間質性膀胱炎治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	
※申請準備中		KRP-108P	気管支喘息	英国 バクテリア社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	

※ 過活動膀胱治療剤「ベオーバ錠50mg」：2018年11月に発売

開発品一覧② (2019年2月5日現在)

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

※前回 (2019年3月期 第2四半期 11月5日発表) からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (18年8月)		KRP-N118 (SK-1404)	夜間多尿による 夜間頻尿	(株)三和化学 研究所	バソプレシンV2受容体のアゴニストで、腎臓の 集合管で水の再吸収を促進して尿量を減ら す(抗利尿作用) 有効性と安全性に優れた夜間多尿に伴う夜 間頻尿治療薬として期待されている	(株)三和化学研究所とライセンス契約 (18年3月)
Ph II (18年6月)		Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子 REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞 選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を 誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業 [NexTEP]への採択(14年6月) 【米国】桃太郎源(株)が前立腺がんの 臨床試験(Ph I / II)実施中 【日本】岡山大学で肝がんの医師主 導臨床治験 (Ph I / I b)実施中

導出品の状況

開発段階/海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	米国 ブリistol・マイヤーズスクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走 を抑制し抗炎症作用を示す	ブリistol・マイヤーズスクイブ社 とライセンス契約 (15年12月)

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位：億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	820	-9	68	-10
医療用医薬品事業計	776	-9	63	-10
◆新医薬品	562	-17		
○国内	555	+7		
○海外	6	-25		
◆後発医薬品	214	+8		
ヘルスケア事業計	44	0	2	0
調整額	-	-	3	0

2019年3月期 第3四半期 業績と修正予想 (連結)

(単位：百万円)

	18年3月期 第2四半期	19年3月期 第2四半期	18年3月期 第3四半期	19年3月期 第3四半期	前年差額	増減率 (%)	18年3月期 (実績)	19年3月期 (修正予想)	19年3月期 (当初予想)
売上高	50,758	50,360	82,923	82,017	-906	-1.1	110,640	110,600	114,400
医療用医薬品事業	47,977	47,581	78,484	77,601	-883	-1.1	104,703	104,600	108,400
◆新医薬品	34,972	34,028	57,902	56,165	-1,737	-3.0	77,041	77,100	80,900
○国内	34,449	33,424	54,798	55,535	+737	+1.3	73,702	76,100	79,900
○海外	523	604	3,104	629	-2,475	-79.7	3,339	1,000	1,000
◆後発医薬品	13,005	13,552	20,582	21,436	+854	+4.1	27,662	27,400	27,400
ヘルスケア事業	2,781	2,779	4,438	4,415	-23	-0.5	5,937	6,000	6,000
営業利益	1,443	2,852	7,805	6,794	-1,011	-13.0	8,822	8,200	8,600
経常利益	1,693	3,183	8,246	7,124	-1,122	-13.6	9,345	8,600	9,200
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,240	2,217	6,119	5,112	-1,007	-16.5	6,574	6,100	6,600